

名古屋セントラル病院 消化器科

防災を考慮した最新設備が
地域に高度な救急医療を提供する

大規模災害を想定した 最新設備を備えた新病院が誕生

名古屋セントラル病院は、前身である名古屋鉄道病院、JR東海総合病院を経て、平成18年7月に高度救急医療を地域に提供する新病院として誕生しました。病院建設にあたっては最新の免震構造を採用し、2ウェイ方式の電源システムとガスを利用した自家発電を併用するほか、玄関フロアに床暖房を設置するなど、大規模災害時にも地域住民が救急医療サービスと快適な非難スペースを利用できるようになっています。また、アジアで初めて導入されたMRI手術室設備(脳神経外科)や放射線を用いた癌治療装置、最新型のPET-CTなどの先端医療機器を駆使し、より質の高い先端医療を地域に提供しています。さらに、東海地方では初となる病室の全室個室化を実現するなど、患者さまの立場に立った快適な医療サービスの提供を目指しています。

患者さま本位の快適な医療サービスを提供

消化器科では約200m²の内視鏡センターに4室の検査室とリカバリールームを備え、通常の内視鏡に加えてNBI内視鏡や小腸内視鏡などの設備を用いて最新の内視鏡検査と治療を行っています。平成18年4月からはESDを本格的に始動し、半年間で30例を施行しました。また、患者さまの苦痛や不安を軽減するために鎮静剤や鎮痛剤を用いた楽な内視鏡検査を実施し、さらに薬剤が効きにくい、または使用しにくい患者さまには経鼻内視鏡を使って検査を実施しています。この



消化器科 主任医長
川島靖浩 先生

ような「患者さま本位」の姿勢が評価され、内視鏡検査数は年々増加傾向にあるそうです。

安全で均一な内視鏡検査と治療を提供するため、消化器科では処置具のほとんどをディスプレイ化し、ガイドラインを遵守したスコープの症例間洗浄を励行しています。同科主任医長の川島靖浩先生は、「4名の看護師は全員が



〒453-0801 愛知県名古屋市中村区太閤3-7-7
院長：齋藤 英彦 病床数：198床
【年間内視鏡検査数】 上部内視鏡検査数 約2100件
下部内視鏡検査数 約1000件 ERCP 約100例 ESD 約50例
スタッフ：医師4名 看護師(内視鏡技師)4名

内視鏡技師の資格を取得しているなど、感染対策には非常に熱心に取り組んでいます。今後も消化器内視鏡技師会が開催するセミナーや勉強会などに積極的に参加してもらい、知識や意欲をより高めてもらいたいと考えています」とおっしゃいます。医師と看護師がそれぞれ役割を分担することで、検査や治療の安全性の確保と効率化に務めているとのことでした。

自由な人材交流が個人のスキルアップに貢献

消化器科では研修医の教育にも力を入れており、平成19年度は研修医の受け入れを5名に増員し、即戦力となる人材育成に努めます。川島先生は、「当科では大学や医局ごとの垣根のない人材交流を行っているため、自由な雰囲気の中で積極的に情報交換をし、高い技術を身につけてもらいたい」と述べられました。今後は消化器内視鏡の専門医を育成することで人員を増やし、院内で実施している年間7,000件近い人間ドックにも対応できるよう、チーム医療の強化に努めていきたいとのことでした。



消化器科のみなさん